

プログラム名 (40字以内)	山で暮らす人々の言葉に出会う—聞き書きによる地域協働ワークショップ 高知県大豊町の小・中学生と東大生によるZINEプロジェクト		
団体名/所属	大豊学園、大豊町教育委員会(仮)		
活動区分	ボランティアなどの社会貢献活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	10人ほど	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	本プロジェクトでは、全行程(事前準備・現地活動・事後制作)への参加を必須とします。他者の話をすぐに整理・要約せず、分からないさを抱えたまま考え続ける姿勢、生徒や地域の人々と対等な学習者として関わろうとする姿勢、そして書く言葉に責任を持つとする意識を重視します。専門分野や事前経験は問いません。		
活動期間	実施期間:2026/8/10(月)~8/15(土)、または 8/17(月)~8/22(土)(予定) ※参加者確定後、関係者と調整のうえ日程を決定 します。 ※事前オリエンテーション(駒場)およびオンライン ミーティング(2~3回)を予定しています。	主な活動予定場所	高知県大豊町
プログラム実施の目的	本プロジェクトに参加する大学生にとっては、他者の人生の語りに丁寧に耳を傾け、その言葉を安易に要約・一般化することなく記録する経験を通じて、「人の話を聞くとはどういうことか」「書くことにはどのような責任が伴うのか」を身体的に学ぶことができる。また、大豊町で暮らしてきた人々、特に山間部で自然や土地と密接に関わりながら生活してきた人々の語りに触れることを通じて、大学生自身が前提としてきた都市的な価値観や時間感覚、働き方・生き方の枠組みが問い直されることも重要な目的である。効率や成果では測りにくい判断や経験の積み重ねに向き合うことで、他者の人生を自らの尺度で理解しようとする姿勢が相対化されていく。さらに、本プロジェクトでは、大学生と生徒が教える／教えられる関係に立つのではなく、異なる生活経験をもつ学習者として協働する。大学生は生徒から地域の感覚や生活の知恵を学び、生徒は大学生との対話を通じて、自身の経験を言葉として捉え直していく。こうした相互的な学びを通じて、年齢や立場を越えて他者とともに考える姿勢を育むことを、本プロジェクトの目的とする。		
具体的な内容(800字程度)	<p>本プログラムは、高知県大豊町を舞台に、現地の小中学生と本学生が協働し、地域で暮らし、働いてきた人々一人ひとりの人生の語りに耳を傾け、その言葉を「聞き書き」として記録し、ZINEとしてまとめる教育実践である。ZINEとは、個人や小さな集団が主体となって自由な形式で制作・発行する小冊子であり、完成度や正確さを競うものではなく、作り手の関心や姿勢そのものが表れる媒体である。</p> <p>具体的な活動内容は、事前準備、現地ワークショップ、事後制作の三段階で構成される。</p> <p>1. 事前準備(オンライン) 現地活動に先立ち、本学生と大豊町の生徒を対象に、オンラインで顔合わせを行う。ここでは、参加者同士の相互理解を深めるとともにチーム編成を行い、本プログラムの趣旨や進め方についてオリエンテーションを実施する。あわせて、地域で学ぶ際の基本的な姿勢や、他者の人生に向き合う際の注意点についても共有する。</p> <p>2. 現地ワークショップ(5日間程度) 現地では、約5日間のワークショップを実施する。 ①初日は、東京大学の学生が中心となり、生徒に対して「聞き書き」の基本的な考え方や方法、ならびにZINEとはどのような媒体であるかについて説明を行う。聞くことと書くことの違いや、インタビューとの違いについても、具体例を交えながら共有する。 ②2日目から4日目にかけては、聞き書きの対象者を訪ね、実際に話を聞く活動を行う。この部分は主に二つの軸から構成される。一つ目は、対象者へのインタビューである。これは、一定の場所に腰を落ち着け、生徒および大学生が対象者と向き合いながら、その人生や経験についてじっくりと話を聞く時間である。語りの流れを急いで整理することはせず、言葉の間合いや沈黙も含めて受け止めることを重視する。二つ目は、対象者の生活や仕事の現場を訪ねる活動である。畑や工房、家、会社、山林など、対象者が日々過ごしている空間に身を置き、仕事や暮らしの様子を見ながら会話を重ねていく。仕事の場だけでなく、生活の場としての空間にも目を向けることで、語りと言葉がどのような環境の中で生まれているのかを体感的に理解することを目指す。 この期間中は、毎日の取材内容を簡単に整理しながら、どのようなZINEにまとめていくかについて、生徒と東京大学の学生が話し合う時間を設ける。 ③5日目には、これまでの聞き取り内容をもとに、聞き書きの文章やZINEに掲載するコンテンツの整理を行い、役割分担を決定する。文章、写真、構成案など、完成に向けた素材づくりを進める。</p> <p>3. 事後制作(オンライン) 現地活動終了後は、各担当者が分担した内容の制作を進め、オンラインでの打ち合わせを重ねながらZINEを完成させる。完成したZINEは、学習成果として共有するとともに、地域の人々にも手渡すことのできる形でまとめることを想定している。</p>		
【総額】参加するための費用	50,000円~70,000円(東京からの出発空港によって参加費の総額は異なる)		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	約20,000円(4泊)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	【東京から参加する場合】・お住まいから成田空港/羽田空港の交通費・東京—高知の往復航空券:成田空港—高知間はおおむね20,000円以内、羽田空港—高知間はおおむね40,000円程度となる見込みである。いずれも早期に予約した場合の目安である。現地交通費:5,000円ほど。		
【内訳】参加するための費用(その他)	食事費、取材対象者への手土産代		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	特になし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/130idcfj3ubNFWGJVR2MAAGdls2az5F">https://drive.google.com/drive/folders/130idcfj3ubNFWGJVR2MAAGdls2az5F</a> 資料は随時更新中(閲覧には東京大学ECCSクラウドメールでのログインが必要です)		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		